

## 知床の山で携帯トイレを使っただけのために

滝澤 大徳（山岳ガイド 知床山考舎）

羅臼岳登山口に携帯トイレ回収ボックスが設置されて二年になりました。携帯トイレの利用状況やトイレ場の状況、トイレブースの実験などについては環境省による調査報告書が出されています。私としては何らデータを収集していないので感覚的なものでしかありませんが、確実に成果はあがっていると実感しています。夏山シーズン中は日をあけず反復して登っていますが、一昨年より昨年、昨年より今年、と、排泄物の痕跡や匂いに悩まされる事が少なくなっています。残念ながらすべての登山者が携帯トイレを利用する段階にはなっていませんが、登山者と地元の関係者の中に利用しなければならないという認識はできつつあります。

羅臼岳では回収システムが運用されるようになりましたが、他の山では回収システムなどがないから使えない、あそこには回収ボックスがないから使わなくても良いでしょう、という方がいます。また、あるから使ってください、とか、お任せします、くらいの説明で実際には使われていないのを見ることがあります。携帯トイレを使わないようにするための理由付けをシステムに求めたり、他人の排泄行為に触れることをタブー視していないでしょうか。

今回機会をいただきましたので知床山考舎の方法を紹介させていただきます。携帯トイレを使われている方には経験的に知っていることばかりです。使っただけのための理由付けのヒントにでもなれば幸いです。

### ・携帯トイレはゴミである

知床山考舎が行なっている方法をお伝えする前に、携帯トイレに関する私の認識を述べさせていただきます。

嫌なものは他人もいや

知床山考舎がガイド登山を行なう上で携帯トイレ利用を徹底したのは2004年のシーズンからですが、山仲間や関係者の受けはよくありませんでした。何でわざわざ人様のブツのことまで口を出すのか、とか、自分はノグソ派である、とか、エコのエゴを押し付けるな、とか、シカのほうが垂れてるべ、などなど、散々言われました。自分自身も、排泄という自然な行為として完結する過程に携帯トイレというプラスチックを含んだゴミを付加する事には抵抗を持っていました。山であえてゴミを作りだし街に持ち込むことになると思ったからです。携帯トイレの導入を訴えはしますが回収や最終処理までお考えいただけていない方と口論になったこともありました。しかし羅臼岳に登れば、トイレの痕跡や踏み跡は増え続け、マナーは低下し弥三吉水や羅臼平の休憩スペースにまで排泄物がある始末です。見るに耐えられないと目を背けても漂う臭気からは逃げることはできません。

自分が嫌だと思っていることに他人もあわせないことを考えると、まず自分が携帯トイレを使うこと、そして自分がガイドするお客様がトイレ問題の負の側に加担しないようにすることが必要であると考えました。

携帯トイレは何ゴミか

携帯トイレの導入にあたって最初に確認したのは、使用済みの携帯トイレが何のゴミに分類されるかを調べることでした。

斜里町の家庭系のゴミは、「粗大ゴミ」、容器や紙などリサイクルできる「資源物」、堆肥に加工している「生ゴミ」、それ以外は「一般ゴミ」に大別されています（平成16年当時～平成21年現在）。使用する携帯トイレは「サニタクリーン」を使うこととしたのですが、構造的には便袋は一般ゴミ、高密閉チャック袋（以下、密閉袋）はプラスチックとして資源物になります。斜里町の担当者の結論は紙オムツと同じ扱いということで、汚物をトイレに捨てた後の「便袋は密閉袋に入った状態で一般ゴミ」でした。密閉袋も汚損されている場合、一般ゴミとして処理することとなっているためです。

斜里町では収集車で処理場に運ばれたゴミは体積を小さくするために破砕機にかけられてから埋設されています。破砕機に円滑に投入されるように、また、機器の破損につながるようなものが紛れ込んでいないかベルトコンベア上のゴミ袋の流れを作業員が手作業で管理することがあります。最後に破砕されたゴミをトラックに積んで埋め立て地に運ばれます。最終的には破砕されるというものの、ふん尿、ペーパー、生理用品以外のゴミをいっしょに入れたり、収集中に中身が漏れるなどの事故は起きないようにするべきと考えました。携帯トイレの末路を知ることで回収方法が決まりました。

余談ですが、斜里町では平成24年度を目標に処理施設を移転、高温高圧処理方式でゴミ処理する計画が進んでいます。その基礎調査でゴミのサンプル調査が行われていますが、家庭系一般ゴミの重量当たり約27パーセントが紙オムツであるという数字が出ています（夏期、斜里市街地とウトロ市街地の合算）。斜里町のゴミに占める携帯トイレの量は本当に微々たるものであるともいえます。

平成20年から岩尾別登山口に設置されている回収ボックスに投棄された携帯トイレは事業系一般ゴミとして処分されている。処分方法は家庭系一般ゴミと同じ。羅臼温泉登山口では観光客専用燃やせるゴミ用ゴミ袋を購入、これに入れて一般ゴミとして投棄する。処分方法は焼却。

迷惑ゴミにしない

もちろん当時は羅臼岳の回収システムがなかったので、自分が回収して家庭系一般ゴミとして処分することにしました。その日は携帯トイレの回収を移動先の宿で行なうことにしたのですが、途中立ち寄った景勝地で事件が起きました。

灰皿兼用の小さなゴミ箱に携帯トイレが山になって押し込まれていたのです。自分のお客様の行為であることは瞭然でした。山の中ではゴミを落とさないように気を配り、携帯トイレも使ってくれたみなさんが、山を下りると・・・携帯トイレは結局は汚物であり、できるだけ早く身の回りから離しておきたいものであることを思い知らされました。そし

て、山の環境を守るために街にゴミを持ち込む訳ですから、街で粗相があつては本当にエゴになってしまいます。携帯トイレを使ってほしいという想いだけ押しつけて、適切な指示は出していなかったと反省しました。

宿泊施設に携帯トイレについて聞いてみると、尿とりパッドや紙オムツをそのまま部屋のゴミ箱に捨てていかれるよりずっといいよ、とは言われましたが、迷惑なゴミであることには変わりはないわけです。部屋を掃除されるパートの方が携帯トイレを知らなければ開封してしまうかもしれません。

これらは携帯トイレの問題というよりゴミのマナーやルールという問題ですが、登山者のゴミ、それも汚物が入ったゴミが置いていかれる＝迷惑なゴミということになれば、登山者以外からも不満が出てくることになり、携帯トイレの普及にはマイナスです。

当面は自分が回収する収集方法を徹底するとともに、地元の団体が主催するゼミナールなどの機会を使って携帯トイレがどのようなものか啓発するようにしました。

携帯トイレを普及させるためには、その過程で迷惑ゴミにならないこと、そして、登山者以外のどなたであっても携帯トイレが携帯トイレであることがわかり、どこに捨てるといいのか処理方法までわかっている状況を醸成することができれば、と考えています。

#### ・携帯トイレを使っていただくために

携帯トイレの存在を知っている方は多いですし、持っているという方もいるのですが、北海道外の山に登っていらっしゃるみなさんは実際に使うチャンスに恵まれていないともいえるでしょう。道外では山小屋やトイレなどの設備が整っているルートが多いため、携帯トイレを使用する機会は少なく、非常用と考えている方もいます。対して北海道は登山口にトイレがあれば良いほうで、長時間の行動中トイレ施設がないというのが普通の状況ですから、垂れ流すか、携帯トイレを使用することになります。現地での選択は二者択一な訳ですから携帯トイレを使ってもらい、トイレ問題を考えるきっかけをつくるのも北海道・知床にいるガイドの仕事だと考えています。

しかし、携帯トイレを使ってください、とだけお客様に伝えてもなかなか使ってはいただけないのはご存知のとおりです。使っていただくためには5W1H「どうして?」「誰が?」「何を?」「いつ?」「どこで?」「どのように?」をお伝えしておく必要があります。実際にガイドする際のポイントは次のようにしています。

#### 1．計画の時点で

- ・携帯トイレを使用することを明記します
- ・使い慣れた携帯トイレを用意していただきたい旨明記します。用意できない場合などは知床山考舎でも携帯トイレを販売していることを併記しています
- ・入山前の最終トイレ施設がどこかを伝えておきます
- ・使用済みの携帯トイレをどのタイミングでどこに処理するのか伝えます

#### 2．入山前

- ・あらためて携帯トイレの必要性を説明します

- ・携帯トイレを見せながら開封から密閉、携行までデモンストレーションします
- ・休憩地点や時間などを伝えます
- ・水分や栄養の補給、排泄などについて伝えます

### 3．行動中

- ・天候などでトイレ休憩を変更しなければならない場合は早めに伝えます
- ・トイレポイントでは具体的に隠れ場所などを指示します
- ・あらためて携帯トイレの使用を伝えます
- ・袋の密閉と携行方法について確認します

### 4．下山後

- ・回収ボックスがある場合はそこに廃棄してもらいます
- ・持帰る場合は回収用の密閉バケツなどに入れてもらいます
- ・翌日の分の携帯トイレの補給など

Why / Who どうして使うのか、誰が使うのか

携帯トイレの認知度も上がってきているので、環境面への配慮という意味では現在ではほぼ説明する必要はなくなっていると思います。しかし、登山口まで来て携帯トイレを使用すると言われても心の準備が必要でしょう。特に携帯トイレを初めて使用する方には、計画段階、ミーティングの際、現地で説明していくようにしています。

事前に携帯トイレを用意していただく、と明記するのは、他の装備などと同じく自分が使う装備は各自それぞれで用意、携行するものであるということを確認していただきたいからです。自ずとトイレに関して無感心ではいられなくなるはずですが。

携帯トイレを使うといっても各人で受け取り方が違う部分があります。特に使用する対象について「大」には使うが「小」は使わなくて良いと考えている方が多く、特に男性はその傾向が顕著です。排泄されているのは圧倒的に小のほうですから、「大」はもちろんですが「小」もつかいましょう、とお伝えしています。見た目には残らないものの匂いは残ります、と言うこともあります。いままで動物の匂いだと思っていたのだが実は「小」の匂いだったのか、と気づかれた方もいらっしゃいました。みなさんトイレ問題に感心がないわけではなく気がついていないこともあるのです。

Why どうして使うのか

登山中はトイレに行かないように水分を極端に控えるという方がいまだに多いですが、このような誤った常識をあらためていくためにも、山でのトイレのマイナスイメージを軽減する方法はないかと考えています。

水分や栄養の補給が適当に行なわれなければ筋肉を動かすという運動能力はもちろん、脳や神経系の活動能力や感覚能力の低下で注意力の散漫や転倒などの危険性もでてきますし、筋肉や内蔵にかけた負担により下山後も体調不良に悩まされることとなります。また、排泄を我慢することでも体調不良や下山を急いでの転倒事故なども見られます。

体調の管理はそのまま行動管理、事故防止であるといえます。楽しく安全に山を楽しむためには水分や栄養を適切に摂取すること、そして適切に排泄することが必要です。

山でのトイレ行為が敬遠されるのは、トイレ施設・設備がない野外で身を隠す場所がないこと、すでに汚損されているトイレサイトを使わなければならないこと、自分の排泄物を残してくることになること、そのことで環境に影響を与えるだろうということ、また、携帯トイレを使ったら使ったで持ち歩かなければならない等、人それぞれだと思いますが、これらを天秤にかけてもらい、携帯トイレにメリットを感じて使っていただくようにしています。

What 何を使うのか

各人で使い慣れたものを用意してもらうようにしていますが、知床山考舎で用意する場合はサニタクリーンの便袋と密閉袋をセットにして用意しています。モンベルの製品など選択肢も増えてきましたが大小区別なく使いやすいことが選定理由です。

日帰りでは便袋×1と密閉袋×1の組み合わせにして用意してあります。便袋は1リットル程度は吸収できるので、通常がまんせずに排泄されるの尿の量300ミリリットルであれば2~3回は使える、つまり日帰りであれば1袋で足りると伝えてあります。衛生面や気分的なことを考えると一度に1袋づつ使うほうがよいのですが、コンパクトに携帯したいということとゴミの減量化、金銭的負担を小さくしたいと考えています。

縦走などであれば、一日当り密閉袋×1に対し便袋×2で用意すると、大と小の組み合わせで密閉袋がちょうどいっぱいになります。ちなみに2泊3日で知床連山を縦走した際に大小すべて携帯トイレを使って持ち帰ると、一人当たり密閉袋2~3袋で一人当たりの重量は平均2.6キログラムでした。お客様にとっては入山時より下山時のほうが背中の荷物は重くなった計算でした。

使用されたことがない方の中には自動車用品店などで扱っている携帯トイレをお持ちになる場合があります。これらは使用後はジェル状にはなるものの圧力に弱く破れたり漏れやすいため、そのままでは携行が難しいのですが、密閉袋に入れることで何とかできます。もちろんこちらで予備を用意してはいますが、ご自分でご用意されたことは認めつつ、次回以降は登山にあった製品を使っていただけるようにします。

リピートされる方は各自で用意してくるか、計画段階で何個販売してくれと連絡をいただけるようになりました。ツアー登山などの場合は前日までに全員に配布し、下山後に使用した分だけ代金をお支払いいただく方法をとることもあります。

Where/When どこで使うのか、いつ使うのか

入山前の最後のトイレ設備や休憩ポイントをお知らせしておくことで各人のトイレの予定が立てやすくなります。

羅臼岳は弥三吉水や銀冷水、羅臼平などトイレとして使いやすい場所でもある休憩ポイントが次々出てくるので予定も設定しやすいともいえますが、逆にあっちでもこっちでもトイレ休憩の希望が出かねないともいえます。出物腫物所嫌わずとはいいますが、トイレは時間がかかる行為ですから、そうすると計画的な行動ができません。行動計画の中で休憩とともにトイレ可能な場所を設定し、状況を判断しながら決定する作業となります。

現地では具体的に場所を指定します。指示をしないと好き勝手に物陰を求めて植生帯への進入が生じてしまいます。

羅臼岳では伝統的に使われてきたキジ場をお伝えしています。このような場所は休憩ポイントから少し踏み分けて入っていく場所になるのですが、昨今はその通路上に、甚だしい場合は入り口に排泄物がある状況が見られます。あまりにも入口が汚損されているような状況であれば手前で用が足せるようツェルトなどで目隠しをつくる場合もあります。このようないやなシチュエーションで携帯トイレが使われた方は、排泄物を自分が残していない、ということに新鮮さを感じるようです。

踏み分けの問題をいえば、同じ場所を使ってインパクトを強めるより分散して各所を使ったほうが良い、という方もいらっしゃいますが（そういう方はノグソ派でもあることが多い）どちらも程度問題だと考えています。汚物を残していくことで分散する傾向がどうしても出てきますが、インパクト受けてしまったいわゆるキジ場でも携帯トイレの使用が徹底されるのであれば快適に繰り返し使えることになるのですから分散のリスクは弱められるでしょう。極端な話をすればシェルターになるものさえあればどこでもトイレにすることが可能な訳で、植生帯に踏み込む必要はないのです。幼児、児童などの場合は大人と違って休憩ポイントとトイレのタイミングがあわせられないことがあります。そのような場合、登山道上にツェルトを張った中で用を足してもらうことがあります。また、縦走などでテント泊していると野外での排泄が気になって便秘になり体調を崩される方もいらっしゃいますが、ツェルトやテントをトイレとして空間を仕切ってしまうことで解消されることがあります。これらは携帯トイレを使うからこそできる方法でしょう。

How どのように使うのか

どのように使うのか事前にレクチャーすることが有効だと考え、携帯トイレを使って開封から密閉までデモンストレーションしています。

持ってはいますが開封したことがない方も多いものです。サニタクリーンの便袋の場合中は広げると、なーんだ、という安心したような声が聞こえることがあります。便袋の底に吸収体を見て大人用オムツやペットのシーツと同じようなものだということで、これまで得体の知れないものだった携帯トイレの正体がわかるためでしょう。

使用にあたっては、吸収体を標的にすることを強調します。また、男性が小をする場合に地面に広げておくと周囲まで跳ね散らかしてしまうので、袋を一度広げてふちをまくった後に細長くすばめて股間にあてて立ちションすることをすすめています。

How どのように運ぶのか

使い方をレクチャーする上で最も重要なのは実は携行する方法なのかもしれません。自分のものとはいえ排泄物ですから中身がこぼれないようみなさん気になります。

排泄物により吸収体がかっちり固まると思って便袋の扱いが粗雑にされる方もいますので、排泄した直後や尿の量が多いと吸収体から水分が滴ったり、便袋に穴があれば漏れることがあることをお伝えすることがあります。

便袋、密閉袋ともに収納時、密閉時にできるだけ中の空気を抜くようにお伝えしています。コンパクトにするということもありますが、破裂する危険性をできるだけ少なくしたいからです。サニタクリーンの密閉袋はそのチャックが優秀ですから空気が入った状態で多少の圧力をかけても開かないですが、念には念をです。そして、チャックもしっかりと指をスライドさせて閉めるように伝えます。高齢の方の中にはチャック上を数力所挟むように押さえるだけで密閉されていないことがありますから、ザックにしまう際などに空気が抜けたように見えたときは指摘します。

密閉してもザックの中に入れるのには抵抗を持つ方が多いですが、外にぶら下げればヤブに引っ掛けたり落とす危険性があること伝え、収納してもらいます。サニタクリーンの密閉袋には取手状のホールがあるので、ここを使ってザックにぶら下げようとする方も見受けられますが、強度はないのでちぎれて落とす危険があります。

収納の際は、転倒などしてザックに体重がかかっても影響を受けづらい場所、ザックの正面や背面ではなく側面に立ててパッキングすることを勧めています。

Where/When どこに捨てるのか、いつ捨てるのか

使う前から捨てる先を心配される方が多いのも携帯トイレならではでしょう。登山の前日のミーティングで、使用済みの場合は帰りの飛行機には手荷物では持ち込めないのではないか、と聞かれたこともありますから。

下山したらどの時点でどこに捨てるのかお伝えしておきます。そして下山後は、みなさん早く手放したいと思っていますから、できるだけ早い時点で忘れずに指示をするようにしています。ザックを開けることになるので時間がかかる場合がありますから、全員が一度に提出してもらえようようにするべきでしょう。

回収システムがある山に関しては回収ボックスの場所やルールに従って指示をします。回収システムのない山の場合は下山先で処理ができるかどうか調べておく必要があります。宿泊先で処分してもらおう場合も事前に確認も必要でしょう。場合によっては密閉蓋付きのバケツか防水バックに回収して、処理できるところまで運搬することもあります。

Other その他

使用済みの携帯トイレ用にカバーや袋を用意して、ザックに入れたり外付けできるようにされている方々もいらっしゃいます。大便で使った場合や一日以上時間が経つと密閉袋といえども匂いが気になる場合があります。モンベルから専用の製品も出ていますが、袋の口を複数回折り込んで密閉する防水バックは水も匂いも漏らさずに運搬できるので、縦走などの場合はお客様にお使いいただくことがあります。

実は私は日帰りの登山ではサニタクリーンなどの携帯トイレは使っていません。小用の水筒を用意して使っています。1リットル程度で口が広めであれば使いやすいものです。下山後は通常のトイレに流して水洗いするだけですからゴミを伴いません。男性の場合は特に工夫なく水筒などを利用できるので有効な方法であると確信しています。リピーターの方はこの方法が増えてきています。

・知床で携帯トイレを普及させるために

私が羅臼岳をガイドするとお客様のほぼ全員が1回以上携帯トイレを利用し、それらはすべて山から降ろされています。休憩中や下山後に携帯トイレ使用の感想や評価を聞くようにしていますが、「使える」ことを実感していただけています。私がガイドするお客様は羅臼岳の年間登山者全体の2パーセントに達しないわけですが、この方々が携帯トイレを使ったという体験を持ち帰っていただき、他の山でも携帯トイレを使用していただければ知床山考舎の直接行動としては成功だと考えています。

しかし、我々以外の98パーセントはどうでしょうか。ツアーリーダーやガイドが啓発していたり、自主的に使用されている方もいらっしゃいますが、回収量から推定される使用量は絶対に少ないと考えざるをえません。

携帯トイレをさらに使っていただくためには、登山者への啓発はもちろんですが、地元と周辺の宿泊施設など観光関係者の理解と協力も不可欠です。羅臼岳は斜里岳や雌阿寒岳と組み合わせて登られることも多く、いずれかの登山口近くの宿泊施設を利用することになります。これらの宿泊施設などにはこれまでも携帯トイレ利用のリーフレットは配布されているものの、登山者から質問されて困る、と相談されたことがあります。携帯トイレ自体見たことがなく答えようがない、と。足並みが揃っていないと感じられてしまえば、使わなくてもよい口実を与えてしまいます。

羅臼岳を含む知床連山の屎尿処理対策は利尻岳や大雪山など先行地域の事例が活かされておりスムーズに進んできていると感じています。一方で、環境省、林野庁、北海道、斜里・羅臼両町が分担して作業している中で行政間や地域などとの間で温度差も感じることがあります。協議会のような組織は必要ありませんが、地域や民間とも意見交換や協働できる仕組みづくりが必要であると考えています。